

1-5》

第5回ワークショップ

会場：上越文化会館 教育プラザ

第3クールの議論がスタート

住民参加のワークショップ形式による(仮称)厚生産業会館基本設計の検討は、第5回のワークショップから第3クールに入った。第3クールでは、前回の調整会議で共有された「基本的には優先的に利用する人の使い勝手を最優先に考え、その上で複合施設としてのメリットが最大化されるような有効利用を検討していく」という方針のもとに「各施設機能の使い勝手」についての議論が行われた。

今回は前回までの3つの計画案のうち、最も多くの意見が出された中庭を持つ案に絞り込んで詳細な検討が進められた。それぞれの部会では、各部屋の収容可能な人数や設備の配置バリエーションがわかる図面や資料を参考に、自分たちの活動がよりしやすくするために必要な工夫や確認事項について意見が出された。また、現段階での計画案をもとに作成された大きな模型で、実際に参加者と設計者が議論した内容を反映させながら部屋の配置や外部との関係性を検証する作業を行う部会もあった。

公民館部会では、利用の多い軽運動系の部屋について、スタジオ・リハーサル室に加えて多目的室やプレイエリアも「重ね使い」の対象として積極的な議論が行われた。また、和室の設えや、創作室・陶芸室の使い方と設備についても詳細な検討が



子ども部会での議論の様子

2014年4月11日(金)、4月12日(土)

1-6》

第6回ワークショップ

会場：上越文化会館

行われた。子ども部会では、これまでと同様に施設の主機能であるプレイルームについての意見が最も多かった。今回は、その議論に関連して、スタッフスペースや親子トイレ、授乳スペースや相談室といった部屋の配置と使い勝手についても重点的に検討された。ホール部会では、客席数や舞台機構の再確認の後、イベント開催時を想定した楽屋やトイレ、研修室や親子室の使い勝手と設えについての議論が中心となった。



公民館部会での議論の様子



ホール部会での議論の様子

最終回となる第6回ワークショップでは、第5回での議論を踏まえ、施設の顔となるエントランス付近や子ども施設のプレイエリアの配置を中心に修正された計画案が提示された。

公民館部会では、プレイエリアやスタジオ・リハーサル室に至るまで、公民館施設だけでなく子ども施設やホール施設についての重ね使いも検討してきた。どの様な立場からも使いやすい施設とするための議論に時間が割かれ、最後に「親子でくつろげ、中学生も活発に利用できる多世代が利用できる施設にしていきたい」という提言が出された。これらのことを実現するために、WS後半では施設の管理・運営についても合わせて議論することが必要であるという意見や、施設全体のエネルギー計画、景観への配慮についての提案が出されたのも公民館部会の特徴であったと言える。

子ども部会では「市内唯一の子育て支援施設として、たくさんの人にいつでも利用してもらおうための施設を目指すべきである」という意見が出され、特にプレイエリアの使い方についての再検討が熱心にされた。更に、各部屋の細かな使い勝手については前回に引き続き要望が上げられ、今回は収納や手洗い場が主な話題となった。また、乳児から小学校低学年までの子どもとその親の利用を対象とした施設であることから、その行動特性や衛生的配慮について考慮することの重要性について多くの議論がされてきた。

ホール部会では前回に引き続き、ホールの舞台機構に関する確認に多くの時間が割かれた。そこで今回のホール設計において技術的、予算的な制約を考慮し、ホール設計の専門家が提案する最適なホールのつくり方が「音楽優先、客席前方の一部が可動し、客席後部はロールバック式」となることが再々確認された。その他、機材庫や楽器庫からの物の移動や収納のしやすさについての議論もされたが、収納される機材の検討だけではなく、管理運営方法によっても工夫できることを確認し、今後の検討課題とした。

このように各部会それぞれの施設の特徴を踏まえ、細部も含めた最後の検討及び意見の調整が行われた。



公民館部会での議論の様子



子ども部会での議論の様子



ホール部会での議論の様子